EGGPLANT

エッグプラント
那須ファミリー
ホームスクール通信
2006.11.1
No.28

不変の人間と神の性質

五期十八年にわたって県政のトップに立っていた元福島県知事が逮捕されました。八十八年に金権政治脱却をスローガンに知事選に立候補し圧勝して登場した彼でしたが、いつの間にか金権政治のトップランナーの一人になっていたというからあきれます。確かに、非難するのは簡単ですが、聖書に照らし合わせて少し考えてみましょう。

私たちの大半は賄賂をもらうような立場にありません。もし、彼と同じような権力が与えられ、賄賂を提供されたとき果してきっぱりと断れるでしょうか。人間は簡単に人を裁きますが、そういう自分も実は大したものではないことに気づいていないでしょうか。

「偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。」

(マタイ七章五節)

聖書は、人間は創造主から離れたことによって人の行為も自分の行為も正しく裁くことができなくなったといいます。

今から三千年前に生きたソロモン王が残した人生訓が旧約聖書の「箴言」ですが、そこには人間の性質が見事に表されています。

「わいろは、その贈り主の目には宝石。…どこにおいても、うまくいく。」　箴言十七章八節)

わいろの問題は人間の性質と密接に関わっているのです。そして権威・権力を手にした人間はワンマン状態になることが多く、忠告を無視します。

「自分を人から分離させる者は、自分の欲望のままに求め、…愚か者は英知を喜ばない。ただ自分の意見だけを表す。」　(同十八章)

一時的な達成感、充実感に酔いしれるうちに引き返せなくなってしまいます。いつかはばれるかもと思いながら止められず、結局明確な裁きが訪れるまで続けてしまうのです。

「だましとったパンはうまい。しかし、後にはその口はじゃりでいっぱいになる。」

(同二十章十七節)

こういうことは公然としないわけですから、よくないことだと薄々気づいているのです。それを隠してするということは、神の存在を念頭に入れておらず、神がご覧になっているという感覚を持っていません。そういう状態を 神に対する恐れがない」と表現しています。これは、神の前にビクビクして生きるということではなく、人の前にも神の前にも後ろめたさを感じることなく生きるということなのです。

今はどうかわかりません、以前ドイツに行ったときのことです。地下鉄には切符売り場だけで改札口はありませんでした。いくらでも無賃乗車ができるわけです。聖書的道徳観の基盤がある国ならではのことです。切符を買うかはその人の良心に任せられています。このように、世間の目を気にするだけか、目に見えないけれどもすべてをご存知の神を心に据えて生きていくかによって、私たちの生き方は変わってくるのです。

聖書は人間の状態を指摘するだけに留まりません。神の不変の性質をも語ります。神は罪からの開放、罪の赦し、神の愛について語っています。創造主は、人間を不完全さと、その結果 死後のさばきと滅び)から救い出すために、大いなることを計画し、それを実現されたと述べています。

イエス・キリストとは 救い主イエス」という意味です。神が遣わした救い主についてみなさんはお聞きになったことがありますか?

こんなことしました！　行事報告

十月

七日～九日　大阪府立海洋センターで交わり会
十四日　日曜学校遠足　大泉緑地
十五日　実用英語技能検定四級試験(M)
二十四日　JCホームチャーチスクール訪問

「歴史上の人物もおすすめ　甘味処『むかし屋』」

E

JCの社会の中谷先生の授業を受けました。歴史上の人物が愛したおかしとそれにまつわるエピソードを教えてもらいました。清少納言の「かき氷」、千利休の「ふの焼き」、勝海舟の「あいすくりん」、夏目漱石の「羊かん」森鷗外の「まん頭茶漬け」をみんなで分たんして作りました。

大豆からきなこを作ったりしました。できあがった時はびっくりしました。ぼくは、羊かんを作りました。寒天をとかしたりしました。むずかしかったです。一番びっくりしたことは、大豆からきなこができることでした。きなこもちのきなこが大豆からできることも知りませんでした。大豆をミキサーでこなごなにしたりしました。ぼくが一番おいしかったのは、自分で作った羊かんです。みんなに人気があったのは、お母さんたちが作ったふの焼です。まん頭茶漬けは、みんな食べるのをいやがり、食べたのは三人だけでした。社会の中谷先生はいろいろ教えてくださるので毎回楽しみです。

←Mくん、まん頭茶づけを食べています。顔に注目！すごい味！

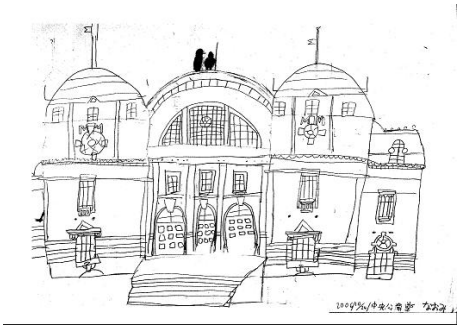
←これは　ふの焼き

Mの読書コーナー

「ぬいぐるみを檻に入れられて」ジェニングス・マイケル・バーチ著

このお話はある小さな男の子（著者）の身の上に起こった実話を基に書かれています。舞台は一九五〇年代のアメリカで、ジェニングスが初めて児童施設に預けられるところから始まり、施設を転々として、セルという親切な男性に引き取ってもらうまでの数年間の試練の日々が語られています。まだ少年のジェニングスが、家族と引き離されて施設を転々として、友だちに別れる様子は本当に痛々しいです。

何の不自由もなく暮らしている僕たちにとっては、想像も出来ないほどのストーリーで最初は戸惑うと思います。十年以上前に出版されてから、合計十七ヶ国語に訳されたベストセラーです。ぜひ読んでください。



←N がかいた中ノ島公会堂、できばえはどう？

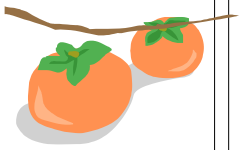
中ノ島中央公会堂の写生

H

JCホームチャーチスクールの友達と中ノ島中央公会堂の写生会に行きました。中ノ島公会堂は、大正七年にネオルネッサンス様式で建てられました。赤レンガが造りとアーチ状の屋根が目に引きます。その後、復興工事も行い平成十四年十一月にリニューアルオープンしました。

写生に行った十二人が描いた絵は様々でした。すぐに仕上げて遊びに夢中になっている人や、すごく丁寧に細かく描いている人もいました。

私はその時間内でできなかったので、家で完成させました。難しかったところは建物に色をつけることです。壁の色に合う色鉛筆がなかなか見つかりませんでした。とてもいい季節に外で絵がかけてよかったです。

編集後記

収穫の秋です。今年はどんな実ができたかな？もちろん食べ物ではなくて、心の実です。聖書にある「神さまの霊の実」を一つでもできるかな。